

審判研修

審判心得

- * 公平であること（私情を入れない）
春のうららかな、すがすがしい気持ち。雨上がりの月のように（持田先生）
- * 審判規則を熟知する（正しく運用、誤りのない審判）
- * 剣理（理合）道筋、無理、無駄、無法
- * 試合者より一歩先を行く。（実力）稽古をする
- * 審判技術に熟知する（たくさん審判をする）
- * 健康体で活動的に

基本姿勢

- * かかとを意識する（離れないように）
- * 背中が丸まらないようにする
- * 肘をしっかり伸ばす
- * 公正な気持ちで審判を行う、その上での判定

見落とししやすい有効打突

- * 宣告直後の打突
- * 終了同時の打突
- * 場外に出ると同時の打突
- * 一方が一瞬の差での打突
- * 出端小手の直後の面（赤・白の選手が何を打ったかを確認する）
- * すり上げ、返し技等、理にかなった良い技
- * 自分が普段使わない技、予想外の技

審判重点事項

- * 有効打突を正しく見極める能力を養う
①有効打突の要件 ②技の違い、速度による技の見極めを適切に判断
- * 反則行為を厳正に判断（勇気ある決断）
①原因と結果を見極める ②不当な行為（公明正大に試合を行っているかどうか）
- * 両者同時の反則は極力避ける（あり得ることもある）
- * 反則を見逃さない審判より、反則をさせない審判
- * 試合の状況を把握しておく（特に副将・大将、自分は左右されない）
- * 境界線近くの「止め」は、攻防が有るか無いかを見極める

- * 試合者の「中止要請」があった場合は「理由」・「時機」をしっかりと確認する
- * 大幅に移動した場合、元の位置に戻ることを心掛ける
- * 試合者の先を読んで位置取りをする
- * 攻防の先を読む
- * 審判の経験を積む
- * 自己管理をしっかり行う
- * 大きな声で宣告する（試合者、観客、時計係りに聞こえるように）